

百日咳の予防は大切です。

2012.12.06

今年、子供たちは、ワクチン接種で2度新しいことが起きました。ひとつは、口から飲んでいた生ポリオワクチンが不活化ワクチンになり注射になったこと。もう一つは、不活化ポリオワクチンと従来の三種混合（百日咳・破傷風・ジフテリア）ワクチンが一緒になって、四種混合ワクチンができたことです。

不活化ポリオワクチンは子供たちに生ワクチンによるポリオ関連麻痺の恐怖を取り去ってくれました。四種混合ワクチンは三種混合ワクチンと不活化ポリオワクチンを混ぜたワクチンですが、接種の痛みが一回減るといふ福音を与えてくれました。二つのワクチンは順調に供給され、滞りなく接種が進むはずでしたが、四種混合ワクチンは11月の開始早々に、不活化ポリオワクチンは11月中旬から入手が極めて困難になってしまいました。

このような状態で一番恐れるのは、二つのワクチンに引きずられるように三種混合ワクチンの接種も控えられ、百日咳が流行するのではないかということです。百日咳は最近では2008年頃に爆発的に流行したあとその後も年間五千件程度の報告があり、2008年には1名百日咳により亡くなっています。2000年台に入ってから大人の百日咳の報告が増えています。大人の流行の状態とその診断の困難さから考えれば、百日咳の感染の機会は決して減っているということではなく、むしろ増えていると言っても過言ではないでしょう。

赤ちゃんは生まれるときに、お母さんから多くの免疫を受け継いで来ますが、百日咳の免疫はお母さんから受け継ぐことができません。ワクチンをすることによってのみ、百日咳からあなたのお子さんを守ることができるのです。

四種混合ワクチンや不活化ポリオワクチンができないと言われても、従来の三種混合ワクチンは潤沢に供給されています。百日咳の流行を起こさないためにも、生後三ヶ月からの三種混合ワクチンの接種を控える事のないようお願いいたします。